

立川市ごみ市民委員会 第6回委員会 議事要旨

件名	立川市ごみ市民委員会 第6回委員会		
日時	令和2年7月22日(水) 9:00~10:30	場所	立川市役所 302 会議室
出席者	委員：ごみ市民委員会委員（13名） 事務局：ごみ減量化担当部長、ごみ対策課長、計画推進係長、計画推進係、事業系ごみ減量係		
資料	会議次第、資料1～資料4		

会議概要

1. 開会

- ・新任事務局紹介、あいさつ

2. 委員長あいさつ

3. 第5回ごみ市民委員会議事要旨について

前回要旨はホームページに掲載した旨事務局から報告があった。

4. 報告事項

事務局より資料に基づいて説明があり、意見表明や質疑を行った。

【主な意見・質疑】

(1) 一般廃棄物処理基本計画について

- ・資源化量と資源化率の減少の理由は。
→資源化量については、総ごみ排出量の減少に、資源化率については、汚れプラの混入に起因。排出の問題があり、容器包装プラスチックと製品プラスチックに分けた。
- ・汚れプラは焼却しているのか。
→焼却している。清掃工場は老朽化しており、古い炉では高カロリーのものは燃やせない。市として非常に大きな問題だ。
- ・2022年にプラスチックを一括して分別するという新聞記事が出ていた。啓発は今まで以上に大切になってくると思われる。
→丁寧に周知したい。
- ・集合住宅に住む町会未加入の人たちへのアピールをお願いしたい。
→排出者の特定ができないので、管理会社に電話して対応している。
- ・立川では容器包装プラスチックは無料で収集するので、本来燃やせるごみになる

汚れプラを容器包装プラスチックに入れるのではないか。

→そうならないようにしたいが、場合によっては体系を変えるということもあるのかもしれない。

・有料化になったが、レジ袋はプラスチック排出量の2%に過ぎない。レジ袋辞退だけで貢献したという意識を持ちすぎないようにしないといけない。

・今回のコロナのような事態は想定していなかった。ごみの変化は。

→家庭ごみは4～6月は増えている。一方、事業系ごみは減少した。

・資源とごみの分別ハンドブックの配布がされていないという人が多くいる。また、ハンドブックに載っていない品目もある。

→ハンドブックは全戸配布していない。収集カレンダーは全戸配布しており、後半部分に分別の仕方が載っている。アプリもある。品目については、表現の仕方の問題はあるので、お問い合わせいただければ回答する。アプリであれば、一部の文字の検索でヒットする。ハンドブックはページ数の限りもあり載せられない品目もある。世代に応じた周知方法の検討が必要であり、高齢者がより利用する施設でも配布したい。

・以前から、雨の日はどうやって紙を出せばよいか気になっていた。

→雨の日に出してもらってもいいが、余裕があれば次回に回してほしい。

・弁当容器については、コンビニ等にさっと洗えるスペースがあると良い。また、集合住宅のごみの出し方については、指定収集袋に分別の仕方を書いてもらえると管理会社側が周知しやすい。

・管理している物件があるが、排出者の特定ができればドアに貼り紙をしている。

・P. 15にあるエコセメントとは可燃ごみの焼却灰の量か。

→焼却灰の量である。

・計画期間の途中で新型コロナウイルスの流行があった。コロナはごみとも切り離せない。今後、この計画で考えていかななくてはならない。

→前年度比3～4割増しになっているが、処理できない状況ではない。この状況がいつまで継続するか分からないが、まだ具体的な施策にまでは手が回っていない。

・今後、アウトソーシングできるものはした方がいい。

→新清掃工場は、民営化に近いやり方をしている。リサイクルセンターはまだ施設全体の更新の時期ではないが、不具合の改修等を行い、できるだけ長く使用した上で、更新の際にはどこまで市がやるかという議論になると思う。

・プラスチックについて「汚れたら可燃」というのはあくまで最終的な手段で、洗うのが前提ということをアピールしてほしい。

→案内の際に注意したい。

・P. 84 に昼間人口比率において立川が多摩地域のトップになっていると書いてお

り、それだけ事業所の果たすべき役割は大きいと感じている。現在中断しているが、マイバッグの推進や食べきりキャンペーンに協力したい。

- ・P. 77 に令和5年度中に流域下水道への編入を予定とあるが、その後はどうするのか。下水処理場の跡地の活用方法は。

→跡地の活用は、これから考えていくことになる。

- ・レジ袋有料化により、どのくらいレジ袋が減ったのか、調査する予定はあるか。

→現段階で具体的には回答できない。何らかの方法で調べてみたい。

- ・町会の資源回収は大幅に減少している。また、レジ袋の有料化によって、特に若い人がペットボトルを排出する際に苦勞している。缶やビンのように容器に入れて出すという方法もあるのではないか。

- ・ごみが増えていると感じる。マスク、ティッシュが多い。医療系ごみの対策は。

→注射針などの医療系のごみは、毎年度策定している処理計画の中で「処理困難物」としており、薬局などで引き取ってもらうよう案内している。また、針以外の透析の容器やバックについては、相談がある度、個別に対応している。

- ・コロナもごみも個人の意識が大切。個人の意識を高めるよう、読んでもらう、見てもらうよう啓発は工夫を。